

SDGs時代のインフラ整備

—東南アジアでの事例を踏まえて—

日時

11月8日(月) 13:20~14:50

形式

Zoomによるオンライン開催(要事前申込)

「ローマ人はインフラを人間が人間らしい生活をおくるためには必要な大事業と考えていた」と作家 塩野七生さんは綴られています。SDGsのゴール9では、質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラ開発を重要ターゲットに掲げています。これは日本政府やG7が提案している「質の高いインフラ」構想とも軌を一にするものです。

本年4月本学は日本工営株式会社とSDGsに関する包括的連携協力に係る協定書を締結しており、今回は東南アジアでの国際協力事業実施に豊富な経験を有する同社の河浪秀次氏をお招きしインフラ開発の醍醐味につきご講演頂きます。

グローバル文化学環「国際協力特論」の一環として実施しますが、履修者以外の学生・教職員でも参加可能です。関心のある方は是非ご参加ください。



講師 河浪 秀次 氏 : 日本工営株式会社

コンサルティング事業統括本部技師長(東南アジア担当)

大学・大学院では農学部で農業工学を専攻。スリランカ、インド、ネパールなど主にアジアの国々で灌漑事業の調査、計画、設計、施工管理に従事。現在は、日本工営株式会社コンサルティング事業統括本部で東南アジア地域担当の技師長としてインフラ整備事業の実施や運営における課題解決に努めている。また、日本工営株式会社がグローバル展開のために設立したインドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマーにおける現地法人の役員として会社経営に携わっている。

申込

件名を「11/8公開講座」とし、本文に氏名、所属、学年、E-mailを明記の上、グローバル協力センター(info-cwed@cc.ocha.ac.jp)までメールしてください。

